

平成 31 年 4 月 27 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第三回「トリウム原子力システム」研究専門委員会
開催日時	平成 31 年 1 月 16 日(水) 13:30~17:00
開催場所	京都大学 本部構内(吉田キャンパス) 総合研究10号館117室
参加人数	22 名(敬称略・順不同) 高木(都市大)、竹澤(都市大)、深澤(日立 GE)、坂場(MHI)、渡邊(トリウムテックソリューション)、後藤(同志社大)、後藤(東電 HD)、宮川(日本原電)、鈴木(長岡技科大)、佐々(JAEA)、永沼(JAEA)、三澤(京大)、宇根崎(京大)(記)、北田(阪大)、伊藤(NDC)、大本(関西電力)、魚住(電中研)、小雲(三菱重工)、牟田(阪大)、有田(福井大)、中里(MHI)、田畑(中部電力)
議事	1) 第二回委員会議事録確認(魚住幹事) 魚住幹事より、第二回委員会議事録(メール審議により承認済)の紹介があった。  2) 講演1:「Th-U 燃料部分装荷 PWR による核特性への影響の検討」(北田幹事) 北田幹事より、大阪大学で実施された Th-U 燃料部分装荷 PWR に関する炉心核特性評価研究の紹介があった。  3) 講演2:「京都大学複合原子力科学研究所におけるトリウム関連基礎研究」(宇根崎幹事) 宇根崎幹事より、京大複合原子力科学研究所におけるトリウム関連基礎研究として、KUCA を用いた臨界実験、不確かさ評価、LINAC を用いた Th-232 断面積測定関連研究の紹介があった。  4) 講演3:「トリウムエネルギー国際会議 ThEC2018 の報告」(高木主査) 高木主査より、2018 年11月に開催されたトリウムエネルギー国際会議 ThEC2018 の報告があった。  5) タスク2の進め方について(魚住幹事) 魚住幹事より本委員会タスク2(U-Th 比較)の進め方について、配布資料を元に説明があり、意見交換を行った。
備考	次回委員会の開催時期は4月下旬から5月(GW明け)を目途とし、開催場所とテーマについては今後調整することとなった。

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第 2 回「トリウム原子力システム」研究専門委員会
開催日時	平成 30 年 10 月 16 日(火) 14:00~17:30
開催場所	東京都市大学サテライトクラス 東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビル B1F
参加人数	23 名(敬称略・順不同) 高木(都市大)、竹澤(都市大)、奥出(サウスウェスト研)、深澤(日立 GE)、坂場(MHI)、渡邊(トリウムテックソリューション)、後藤(同志社大)、小坂(MFBR)、後藤(東電 HD)、中瀬(東工大)、高橋(東芝 ESS)、阿部(東大)、宮川(日本原電)、鈴木(長岡技科大)、佐々(JAEA)、永沼(JAEA)、藤井(元 東工大)、三澤(京大)、伊藤(NDC)、大本(関電)、鷹尾(東工大)、吉岡(トリウム熔融塩国際フォーラム)、魚住(電中研)(記)
議事	<p>(1) 委員挨拶 高木主査の挨拶の後、今回が初参加の委員から自己紹介がされた。</p> <p>(2) 前回議事録の確認(竹澤幹事) 竹澤委員より専門委員会開催報告が紹介され、本内容で承認された。</p> <p>(3) 本委員会のタスクの進め方について(高木主査) タスク-1(Th 燃料関連の世界動向の調査)、タスク-2(Th と U の比較)、タスク-3(我が国の Th 原子力研究のあり方に関する検討)の進め方の方針が高木主査より示され、各タスクのリード、サブリードが決定した。</p> <p>(4) 核燃料部会「軽水炉・高速炉におけるトリウム燃料の利用 WG」成果概要報告(講演 1) 伊藤委員より標記 WG による検討の経緯、および得られた成果の概要が紹介された。</p> <p>(5) 中国熔融塩炉開発の最新状況(講演 2) 吉岡委員より上海 SINAP を訪問して得られた情報や所感が紹介された。</p> <p>(6) ウラン選択性沈殿剤を用いたトリウム燃料簡易再処理技術基盤研究(講演 3) 鷹尾幹事より ThO<sub>2</sub> 燃料を処理する THOREX プロセス、および鷹尾幹事らが行った標記の研究について紹介された。</p>
備考	次回委員会は 2019 年1月に、京都大学での開催を予定。

平成 30 年 10 月 16 日

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「トリウム原子カシステム」研究専門委員会
開催日時	平成 30 年 8 月 2 日(木) 13:30~17:00
開催場所	東京都市大学サテライトクラス 東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビルB1F
参加人数	29 名(敬称略・順不同) 阿部(東大)、伊藤(NDC)、宇根崎(京大)、宇留賀(電中研)、永沼(JAEA)、関本(東工大)、吉岡(トリウム熔融塩国際フォーラム)、宮川(日本原電)、魚住(電中研)、後藤(同志社大)、高木(都市大)、佐々(JAEA)、坂場(MHI)、三澤(京大)、山脇(東大)、小雲(MHI)、小坂(MFBR)、松井(エネ総研)、深澤(日立 GE)、大本(関電)、鷹尾(東工大)、竹澤(都市大)、中里(MHI)、田畑(中部電力)、木村(東芝 ESS)、木村(京大)、鈴木(長岡技科大)、Liem(ナイス)、牟田(阪大)(記)
議 事	(1) 委員挨拶 高木主査の挨拶ののち、出席委員から自己紹介がなされた。その後、議事次第に従って発表と質疑が行われた。  (2) 委員会設立趣旨・活動内容・運営方針について 高木主査より、本委員会の設立の経緯と趣旨が紹介され、研究・活動項目の具体的内容について議論された。本委員会ではトリウム燃料関連の世界動向の調査(Task1)、トリウムとウランの比較(Task2)、我が国のトリウム原子力研究のあり方に関する検討(Task3)を進めていくこととなった。  (3) トリウムサイクルに関連した研究の回顧(講演 1) 木村逸郎委員より、ご自身の略歴と研究履歴、トリウム燃料の基礎、黎明期のトリウム関連の研究内容、国内外の動向が紹介された。関連してトリウム利用を強く押し進めているインドとの関わりが紹介され、1990 年の日印セミナーの貴重な資料が回覧された。  (4) 日本の熔融塩炉研究開発の方向性(講演 2) 山脇委員より、熔融塩炉研究開発の状況等について紹介された。はじめに米国・中国の開発リーダーも招かれた資源・エネルギー戦略調査会熔融塩炉第二回推進総会の様子が紹介され、第5次エネルギー基本計画でも言及された熔融塩炉への期待が高まっていることが説明された。その後、世界の熔融塩炉研究開発動向として米国、中国、カナダ、オランダ、英国の開発状況が説明された。
備 考	次回委員会 ThEC2018 の前、10/16 の 14 時より東京都市大学サテライトクラスにて第 2 回委員会を開催することとなった。